



グーフォかわちより



編集・発行
社会福祉法人
河内四つ葉会
グーフォ・かわち

〒329-1105
栃木県宇都宮市
中岡本町3178-3
TEL 028(673)0002
FAX 028(671) 0785

六周年を迎えたグリーフオ・かわち

社会福祉法人河内四つ葉会 理事長 濱 雅江

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年は、東日本大震災で被災された方々に心から痛みを感じ、一日も早い復興を祈りながら新年を迎えました。その様な中で地域の大切さ、人と人との絆、家族など、さらに考えを新たに致しております。この地に法人の立ち上げから早や六年、「グーフォ・かわち」も四十名の利用者を迎え、昨年十一月には新法に移行し、多機能型の施設として指定を受けました。職員の配置も整え、利用者の支援にも「本人なりの自立」を目指し、努力致しております。地域の皆様方にも「グーフォ祭」を通して理解と協力を頂きながら多くの方々と交流を重ね、地域の施設として受け入れられるよう運営にも心がけていきたいと思っております。利用者の皆も仕事はもちろん色々な行事を通して、仲間意識や経験を深めています。この事は今後、居宅事業等を運営するにあたり、障がいのある彼らが地域で生活していく為に最も必要な事は、地域社会の理解である事は言うまでもありませんが、本人達の生活を通しての経験が必要であり、又安心できる地域生活を支えるサービスの拡充が重要になります。保護者の皆様には将来を考えると悩みは尽きず、ご苦労もあるとは存じますが「この子を幸せに」との心と、力を結集し、所属団体や施設と共に歩んでいってほしいと願っております。

新体系事業へ移行

グーフォ・かわち丸六年が経とうとしています。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

峰 寛子

グーフォ・かわち丸六年が経とうとしています。本年もどうぞ宜しくお願い致します。法律がほんの数分で廃止されたり、施行されたりする中で障害者福祉を担う現場は、少々やりきれない感を持ちますが、福祉の役割をしっかりと果たしたいと思っております。

昨年十一月一日、新体系事業へ移行しました。これを機会に定員三十名を四十名に変更し、事業内容は、「就労継続支援B」(定員十五名)・「自立訓練(生活訓練)」(定員十五名)・「生活介護事業」(定員十名)の多機能型となりました。利用者の方々の考え方は、次の二点になります。

①障害を持つ方々が「その人らしく生きる」ようサポートしていき、べきとする障害者自立支援法の理念と「障害を持つ方一人一人の最適な自立」を目指し、支援していくという事業所の理念から逸脱しないようにしていく。

②一人一人の持つ能力、障害の特徴と個々のニーズに合った支援ができるように今の環境を有効に使う。

当面は今の利用者の実態(平均年齢三十三歳)に合わせて働く事と作業を通して各事業毎にそのねらいを段階的に捉えて支援していく事とします。

・就労継続Bの利用者は、生産活動としての就労支援
・自立訓練の利用者は生活自立支援を軸にしながら今後就労継続Bに移行できる方も多く見込まれる事からこれを旨とし、作業支援を継続していく。

・生活介護の利用者も一人一人のペースに合わせた環境の中で受注作業の一端も担っているため、仲間と一緒に作業を行う事で人的刺激のある環境を保っていく。

移行による利用者・保護者への不安を極力少なくする様、留意してまいりました。

今後は生活介護に於いての健康、体力の維持増進に必要なプログラムを導入、又保護者の高齢化に伴って家族状況も変化し、在宅支援利用の必要性、生活の場(グループホーム・ケアホーム)とこれを利用していくための練習施設の必要性が高くなってきています。今後、これらの計画的な取り組みが必要と見えます。

グーフォ・かわち 保護者会より

新年によせて

グーフォ・かわち保護者会会長 野口 正

新年あけましておめでとうございます。保護者を代表して新年のご挨拶を申し上げます。日頃、会員の皆様、職員の皆様、また地域の皆様にご支えられて、新年を迎えられた事は、大変心強くこの上ない喜びに、深く感謝申し上げます。また、会の運営につきましても、ご理解とご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、二十三年は、継続事業活動と並行して、施設と共にグループホーム(GH)・ケアホーム(CH)・ショートステイ(SS)等の整備計画を担い、取り組んで参りました。まず、五月のアンケート調査(二回目、下記参照)では、五年以内に居住提供希望者が五名おります。この結果を基に、ケアホームの整備時期は、二、三年後を目途に、内部の強化を図りながら事業を進めてきました。その一は、施設見学による勉強会(六、七月は役員、十一月は希望者を募り、四事業所を見学して参りました。その二は、「計画準備委員会」の発足(六月二日に設立)、第二回目の会合は、提案事項等の審議を行いました。その三は、「整備資金積み立ての開始(八月より開始する等、逼迫した状態の中で、それぞれご理解とご協力を賜りながら、実施および新たにスタートできました事、深く感謝申し上げます。

本年一月七日の初行事は、昨年同様に合同新年会が執り行われました。奉仕作業後に出席された保護者の皆さん、午前中わくわくグランドイデオロジック見学をされた利用者の皆さん、そして職員の方々の皆さん、合わせて六十六名の方が参加されました。一年の計は元日に有り共にかんばりましょう。これから、役員会、計画準備委員会の活動において、継続事業活動を含めて、具体的な取り組みの策定やそれに関する勉強会、講習会等を行い、グーフォに相応しい整備を実現して参りたいと思っております。今後とも皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。最後に、グーフォ・かわちの益々の繁栄と、皆様方のご健康とご多幸をお祈り致します。

平成23年5月アンケート調査抜粋

居住提供希望者(年齢:平成23年4月1日現在)(33名回答)

入居希望時期	人員	性別	年齢	
			利用者	保護者
2年以内	2	女	44	父(80) 母(74)
		男	38	父(66) 母(65)
5年以内	3	女	43	父(-) 母(72)
		男	38	父(69) 母(66)
		女	34	父(-) 母(66)
5年以降	6	-	-	-
分からない	17	-	-	-
その他	5	-	-	-



保護者会よりお知らせ

4月 第6回 定期総会



編集後記

辰年が明けました。昨年は3月11日の出来事により、普段の生活が見直され、2011年の漢字にも決まった「絆」に注目が集まりました。そしてグーフォでは昨年11月に新法移行となり、現場での支援も日々摸索しながら行っています。

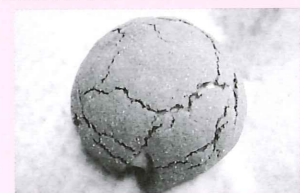
前号、編集後記に載せた兎年にちなんだ四字熟語・鳥飛兔走(月日が経つのは慌しく早い事)のように時間が3月11日の出来事を癒してくれるのかもしれない、3月11日の出来事を決して忘れず今後も「絆」を深めていけたらと願います。

最後になりますが、辰年にちなんだ四字熟語・龍頭蛇尾(最初だけ勢いがよくて終わりになるとふるわなくなる事)にならないよう、新しいグーフォに向けて利用者・保護者の皆様、地域の方々と共に一歩ずつ着実に歩んでいきたいと思っております。(草柳)

新商品紹介コーナー

* チョコメロンパン 150円

生地の中にチョコチップをちりばめ、甘さを控えたココアのクッキー生地でもみましました。チョコ好きの方は必見です!!



* 織物製品・新規販売所のご案内

今年、宇都宮南図書館にて委託販売を予定しています。オープンの際はぜひ一度お越しください☆

各 授 産 報 告

織 物



昨年は大きな震災に見舞われ、皆様も色々大変な年だったことと思います。幸い、織物グループでは震災後間もなくして、織り機の音や報告の声、泣いたり笑ったりと、いつもの光景が戻り安堵しました。

さて、織物の製品化でも新しい変化があり、地域ボランティアさんにはコースターや巾着、ポシェット等の製作をご協力いただきました。また、保護者の皆様からはアイデア溢れる新作の小物をご提供していただき、グーフォ祭で大好評を得ました。

販売では、昨年度に比べて行事での売上が伸びています。8月のベルモールでのイベント販売では、ショッピングセンターでの初の試みであり、またイベント発表も初めての挑戦でした。利用者さんの織り上げた長い織物を公共の場で一般のお客様に披露する事も初めてでしたが、お客様が驚きや興味を示してくれた事を直に感じられる経験となりました。

利用者さんにも随分変化があり、織物の仕上がりが良くなった事や直感だけでなく少し考えて糸選びをする姿等が見られました。また、それぞれの特技を生かしてシール貼り等新しい作業内容を開拓できた事や、グーフォ祭で利用者さんの作品を自分の声で発表した事も大きな成果となりました。技術だけでなく、自己表現の場も広げ、皆に自信を持ってもらいたいと思います。

昨年は色々変化の多い年でしたが、その経験のおかげで平穏な日々の有難さを感じると同時に、小さな変化を見落とさない事も大切であると痛感しました。穏やかに少しずつ変わっていく利用者さんを見守っていききたいと思います。

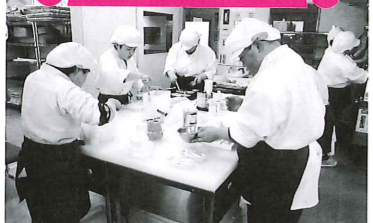
今年度の受注作業の特徴としては、例年閑散期になる夏から秋にかけての作業として、梱包資材商社の「株式会社フカサワ」さんから、「綿手袋の検品」作業を初めて受注しました。作業内容は品質管理用の綿手袋の「ほつれ」や「汚れ」、「穴あき」等を検品しました。1枚1枚小さな不良を見逃さずに検品していく地道で根気のいる作業となり、限られた利用者さんで対応しましたが、とてもよく頑張って検品を進めてくれました。合計で62,400枚を約4ヶ月かけて行いました。この作業を通して、先方も好意的に評価して下さい、また1社と信頼関係が築けた事を大変嬉しく思います。そして新たな受注先や製品の開拓に繋がればと思います。

久和物流(株)さんより受注している「マルハニチロ」のギフト箱折りは、今年度も「お中元」と「お歳暮」の時期に受注しました。2年目となり、かなり作業にも慣れ、テンポ良く箱折りが行えるようになった事と、折りミスによる不良が格段に減った事が今回の特徴でした。こちら先方から、質の面で高く評価を受けています。

栄和産業(株)さんや(株)カンテックさんより受注している「クボタ」の作業では、田植え機等の輸出が多くなり、その為作業が忙しくなってきました。エアキャップやPPバンドの作業は例年の1.5倍程度になっていたり、新たに農機具の出荷時に傷防止として使用する「ゴム板に両面テープを貼る作業」を受注する等、先方との信頼関係の中で仕事を回して頂く配慮もあり、今年度は作業種目も多くなり例年になく忙しい日々を送っています。

Tシャツプリントの作業では、アイロンプレス機を導入しました。これまでより効率よく綺麗に仕上がる為、新商品の開発や営業活動にも力を入れていきたいと思ひます。そしてTシャツ関係で「ガッツリ」収益を上げて、利用者さんの工賃に反映出来るようにしていきたいと思ひます。オリジナル柄で1枚から作成致しますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

パン



昨年はいろいろ大変な年でした。震災だけでなく、タイの洪水でもパンの材料等の仕入れや価格に影響が出ていました。パンの要である粉や砂糖、バターの上上がりが続きました。パンの値上げをせずに利益を出すため、一からの原価計算とお店をめぐって価格を比較し、購入先を見直す等の努力で純利益の低下を防いできました。また、材料や消耗品のムダを減らすために利用者さんにも最大限の協力をして頂きました。何度も繰り返し伝える事で、節電や「もったいない」精神をもってもらう事もできました。今では職員が逆に注意されてしまうほどです。

このような状況でも新商品の開発やさまざまな注文にもできるだけ応えて売上アップを実現しました。主に「余った生地や材料の有効活用」に力を入れました。例えば賞味期限が近い材料と余り生地を使い、斬新なパンをつくって格安で施設内販売する等の方法です。その時の思いつきでつくっている施設外の方々にふるまう事ができないのが残念なほどのご好評を頂く事が多くあります。普段つくりたい物をつくる事で、利用者さんも楽しみながら作業できる事も利点の1つです。「何ができるんだろう」とわくわくしながら職員の手元を見つめている表情は、とても楽しそうでした。

いつも忙しく働き、流れ作業のようにも思ってしまうパンの仕事ですが、ものづくりの本懐である「つくる喜び」を大切にしながら、これからも皆様に愛されるパンをつくっていききたいと思います。

23年度は4月に新メンバーの石井佑季さんが加わり、利用者10名、職員2名の総勢12名が元気ハツラツに農園芸作業に取り組んでいます。

お花の作業では宇都宮中心街にあるユニオン通り商店街、地元にある白澤病院、しらさぎ荘で年に2回お花のプランター植替え作業を行い、週に1回定期的にお花の手入れを行っています。お花の手入れでは5名の利用者が花摘み担当と水やり担当に分かれ、各々が自主的に取り組めるようになってきました。今年度の新しい作業として宇都宮市都市整備部線のまちづくり課が運営するボランティア団体にご協力を得て、9月からパンジーのポット育苗成をはじめました。知識と経験が豊富なボランティアさんにご指導頂きながらパンジーの苗は順調に育っています。

野菜の作業では今年度も猛暑の影響が心配でしたが、種まきの時期をずらす等工夫した事で大きな影響を受けませんでした。また、猛暑の中、農園芸作業をやりぬいた利用者達は、日焼けで肌の色が濃くなるにつれてたくましくなりました。熱中対策をしながら猛暑をのりきった甲斐もあり、冬野菜は豊作で大きな収入源となりました。また、お花の手入れでお世話になっているユニオン通り商店街や市役所わくわくショップU等多方面でも野菜販売を行い、地域の方々から好評を頂きました。現在は冬の気候を利用して切干大根等を生産する事で畑の野菜を無駄なく消費する事ができます。

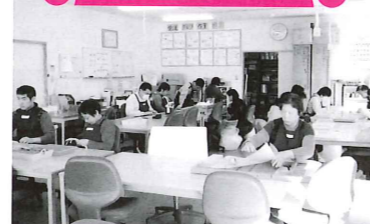
23年度の農園芸にとって大きな事件(?)があります。それはブルーベリーの収穫時期である8月にスズメバチの大群がブルーベリーの木を占拠してしまった事です。ペットボトルにジュース、酢等を入れて罠を仕掛けましたが、スズメバチの大群は止むことなく収穫が激減してしまいました。

23年度は地域の方々とのつながりを改めて実感する事ができました。これからも地域とのつながりを大切にしながら、きれいで丈夫なお花や新鮮でおいしい野菜をつくっていききたいと思います。

農 園 芸



受 注



グーフォの行事 アラカルト

第四回 グーフォ祭 三百名の来場者を迎え、盛大に開催

十月二十一日(土)に第四回グーフォ祭が盛大に開催されました。当日は小雨が降る生憎の天気となりましたが、三百名の来場者をお祭りとなりました。

アトラクションでは今回で三年連続で出演して頂いた「和太鼓キッズゆりかご」の皆様にお呼びかけいただき、オープニングを飾って頂きました。当日は小雨の影響で室内での演奏となりましたが、太鼓が奏でる勇壮な演奏にグーフォの利用者、来場者の方々も時間を忘れて聞き入っていました。

初出演としては作新学院大学「BLUE STARS」の皆様による若さと笑顔溢れるチアリーディングに元気を頂きました。

また、日本コカリナ協会公認講師の久保くみ様によるやさしく、自然な音色のコカリナ演奏に心を癒されました。ラストは会場にいる全員が「ふるさと」をコカリナの演奏に合わせて合唱し、会場にいる全員が心ひとつにつながった瞬間でした。

グーフォの音楽クラブでは「パリスエール」「フリーヒューズ」を、フラダンスクラブ発表では「キラウソング」を披露し、日頃の練習の成果を出し切って利用者のみなさんは達成感でいっぱいでした。

模擬店販売では今回も保護者会の皆様にご協力を頂き、安くておいしい手作りの味に来場者の方々から好評を頂きました。授産品販売でもさをり織り製品、低農薬野菜、焼ききたてパンの他、今回は絆をテーマにした記念Tシャツ販売(売上の一部を義援金として被災地へ送金)を行い、好評を頂きました。

午後はグーフォの利用者による施設紹介や来場者全員でのビンゴ大会を行い、大いに盛り上がりました。

今回も多くの皆様のご協力を得て、盛大に開催されました事に厚く御礼申し上げます。



地域で初披露 フラダンスクラブ クリスマスコンサート



十二月十七日(土)に河内生涯学習センター大ホールで開催された河内地区青少年育成協議会主催の「クリスマスコンサート」に参加し、フラダンスのステージ発表をさせて頂きました。

地域のイベントである今回のクリスマスコンサートに初めてご招待を頂き、今年度生懸命に練習してきた「キラウソング」とグーフォの十八番となっている「月の夜」の二曲を初披露しました。装飾等のクリスマス風の雰囲気漂う会場にてフラダンスを披露できた事となり、利用者みなさんは普段とは異なった刺激を受けていた様子でした。

観客の皆さんからも盛大な拍手を頂き、今年度のステージ発表の集大成として堂々と踊る事ができていたと思います。

ステージ出演後は、綺麗な生演奏や歌を唄ったりしての音楽鑑賞、そしてサンタクロースの登場で泣いてしまいう方もいましたが、プレゼントを頂く頃には笑顔になっていました。「ドキドキ」「ワクワク」が交錯する行事となりました。

今回のイベントを通して、一人でも多くの地域の方にグーフォの存在や活動の一部を知って頂く貴重な場となりました。感謝しております。

「障害者自立支援法」 「障がい者総合福祉法」そして「つなぎ法」

制度以来、批判の多かった障害者自立支援法に変わり、「障がい者総合福祉法(仮称)」が平成二十五年八月に施行を目指して議論され、未だ議論中ですが、「障がい者総合福祉法」では次の四点が望まれています。

①地域で障害者が生活する権利の明文化

②「自立」の意義

③障害者モデルを医療モデルから社会モデルによってとらえる事

④福祉サービスの拡大

総合福祉法の議論とは別に、障害者自立支援法による第二期障害者福祉計画と旧体系の経過措置が平成二十四年三月で終了し、「総合福祉法」の施行予定の二十五年との間に空白期間が生じる事があるため、その空白を埋める法律が必要になりました。平成二十二年十二月、議員立法として「障がい者制度改革推進本部等における検討を踏まえて障害福祉策を見直すまでの間において障害者等の地域生活を支援するための関係法律の整備に関する法律」すなわち「つなぎ法」が成立しました。

この法律では、応能負担の原則、発達障害者を対象とする事、相談支援の充実、障害児支援の強化、グループホーム、ケアホームの助成等の点で従来の障害者自立支援法の問題点を補おうとする特徴がいくらかみられます。

今、新たな体制で審議している新法がこれまでの障害者福祉のあり方を抜本的に変革する法になるのか、それとも障害者自立支援法の修正程度で終わるのか、大きな岐路を迎えています。

